

つながりをチカラに

S・A・I
String つなぎあわせる Approach 近づく Information 情報

Facebookでも情報発信
しています♪



埼玉県社協マスコット
「シャキたまくん」

2023

6



埼玉県社会福祉協議会フォトコンテスト 入賞作品 「梅雨入りの頃」 鈴木 行男さん(坂戸市) 撮影場所：坂戸市



巻頭インタビュー

「誰もが介護したくなるテクノロジー」を
日本から世界へ
～ケアテックを現場のケアチームの一員に～

株式会社aba 代表取締役CEO

宇井 吉美さん

福祉を考える

福祉施設における業務継続計画(BCP)
の策定について
埼玉県福祉部社会福祉課

今日のキラリ

4市町の社協が連携し地域を超えて福祉教育を推進
ふくふく木曜会(嵐山町・東松山市・吉見町・滑川町)



共同募金の助成金で発行しています

「誰もが介護したくなるテクノロジー」を

日本から世界へ

ケアテックを現場のケアチームの一員に

中学時代の介護経験から介護者支援に関心を持った宇井吉美さん。人で人を支えることに限界を感じていた高校時代に介護ロボットと出会い、テクノロジー（科学技術）の世界へ。介護現場で排泄介助の難しさを痛感し、排泄介助関連の研究開発に取り組みました。業界初のおいで排泄を検知する「ヘルプパッド」を開発した思いと、日本のケアテック（※）への期待を伺いました。

介護をテクノロジーで支えたいと思うようになったきっかけをお聞かせください。

私が生まれ育った千葉県旭市は自然に恵まれたのどかな地域で、電車は1時間に1本。車がないところにも行けないところでした。中学生の頃に祖母が鬱病と診断されましたが、情報がなく、どうしていいか分かりませんでした。インターネットが普及し始めた頃でしたが、地域格差がそのまま情報格差になっていた当時は、どこに住んでいるかで、取れる情報のレベルが変わり、受けられるケアが変わるとい悔しさとインターネットへの期待が入り混じっていました。

高校生のときに対話型や見守り介護ロボットに

出会い、「これだ！」と思いました。テクノロジーで介護を支えられると思ったのです。

排泄介助の研究開発に取り組みに至った経緯を教えてください。

介護ロボットをつくりたいと進学した大学で介護施設に行く機会があり、そこで排泄介助の衝撃的な現場を見ました。要介護度が高い方に便座に座ってもらい、介護職の方が腹圧をかけて排便を促していました。本人は何をされているのかの認識もないようで「わああああ」と叫んでいるのを見て、私は思わず泣いてしまい、介護職の方にこれは本人が望んでいるケアなのかと聞きました。



介護現場での経験を技術者として活かし、最先端のロボット技術を研究開発しています。

すると「分からない。だけど便失禁があると家族は大変なので、家族から施設で排便をさせてほしいと言われてます」と返ってきました。

介護職の方たちはなんと難しい問題の最前線にいるのだらうと思ひ、力になりたい一心で「どんな介護ロボットがあればいいですか」と尋ねたところ「おむつを開けずに見たい」と言われました。「私たちは排泄物が出ていないのにおむつを開けたくないけれど、開けないと分からないか



ベッドに敷くだけで排泄を検知し、おむつ交換のタイミングを通知。不快感や便漏れを防ぎ、排泄ケアの負担を和らげます。

ら」と。この経験から学生起業プロジェクトのテーマとして排泄介助関連の研究開発を始めました。

起業したあと、介護現場をより理解するためと研究費を捻出するため、小規模多機能の介護施設で働いたことがあります。介護職時代、利用者さんから「銭湯へ行ってみたい」と言われ、ご一緒したことがあります。介護職として、利用者さんの願いを叶えた経験をさせてもらえました。私はそこで「介護は本来楽しいもの」と教えていただきました。

しかし、現状の介護現場は忙しく、楽しんでいく余裕がないように思います。我々のビジョン「テクノロジーを使って介護したくなる」は、介護を楽しんでやってもらいたいという願いを込めて「したくなる」と表現しています。「介護は辛

いからテクノロジーに代わってもらいたい」ではなく、「介護は楽しいのに今は楽しめないのがすごく悔しいから、それを解決したい」という思いで取り組んでいます。

排泄センサー「ヘルプパッド」とはどういうものですか。

ヘルプパッドはベッドに敷いて、おむつ交換のタイミングを検知するシート型の排泄センサーです。ベッド

上でいつ排泄されているか分からない、どのタイミングでおむつを取り替えたらいいか分からないという介護現場の現状を改善します。

導入した介護施設からは、おむつチェック回数が半分になったという声が届いています。また、排泄のデータが蓄積されると排泄パターン表が天気予報のように自動生成されて、おむつ交換の見通しが立つようになります。

日本にとどまらず、海外まで発信されています。

ケアテックは介護現場の理念を乗せて走る船だと思っています。エンジニアが勝手につくるものではなくて、現場の人がこうしてほしいということから始まって、つながっていくものです。

ヘルプパッドをシート型にしたのは、生活支援の場で身体に機器を付けたくないという介護職の方の思いからです。おむつに機器を付けると交換のたびに付け外ししなければならず、負担は減りません。介護現場の理念の具現化と介護職の方の負担をなくすという2点でシート型にしました。海外の方からは、ジャパンクオリティだと褒められます。このような素晴らしい介護現場の理念を乗せたケアテックを世界中に発信し、日本ならではの介護を届けていきたいと思っています。

最後に、今後目指すところをお聞かせください。

私たちのモノづくりの基本は介護職の方を支援する「介護者ファースト」です。その次に高齢者ご本人、そして施設を運営している経営者、それぞれ三方良しになるようにと考えています。

そしてケアテックをぜひ皆さんのケアチームの

一員として迎えていただきたいです。ヘルプパッドは、介護職の方のようにおむつ交換もご本人に声を掛けることも、視線を合わせて相手を安心させることもできませんが、24時間365日、介護職の方に排泄を知らせることはできます。ケアテックを道具ではなくお互いを補完する仲間として、温かい目で受け入れてくださればと思っています。

※ケアテックとは
介護(ケア)+テクノロジーの造語



株式会社aba 代表取締役CEO

ういよし
宇井吉美さん

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

2011年、千葉工業大学未来ロボティクス学科在学中に株式会社abaを設立。
中学時代に祖母が鬱病を発症し、介護者となった経験を元に「介護者側の負担を減らしたい」という思いから、介護者を支えるためのロボット開発の道に進む。特別養護老人ホームにて、介護職による排泄介助の壮絶な現場を見たことをきっかけとして、においセンサーで排泄を検知する「排泄センサーHelppad (ヘルプパッド)」を製品化。
おむつを開けなくても排泄したことを知らせてくれることで、介護者の負担軽減を目指している。

福祉施設における 業務継続計画（BCP）の策定について



埼玉県福祉部社会福祉課 施設指導・福祉人材担当

大規模災害の発生や感染症の流行に備え、サービスの業務継続のために、平時から準備・検討しておくべきことや発生時の対応などをまとめた業務継続計画（BCP）の策定が重要です。

高齢者施設や障害者施設などでは、令和3年度の厚生労働省の省令改正に伴う県条例の改正により、令和6年3月末までにBCPを策定するよう義務付けられています。

自然災害や感染症による福祉施設の被害

近年、大型台風やゲリラ豪雨など災害の激甚化により、各地で大きな被害が発生しています。本県でも令和元年10月の台風19号により福祉施設が大きな被害を受けました。

また、令和2年からは新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、福祉施設においてクラスターが多発するなど大きな影響を受けました。

業務継続計画（BCP）の必要性

福祉サービスは、利用者や家族等の生活を支える上で欠かせないものであり、被災時においても継続的なサービスの提供が求められています。したがって、被災時に適切な対応を行い、その後も必要なサービスを継続的に提供できる体制を構築することが必須です。

新たな県の支援事業

県では今年度から、高齢者および障害者の入所施設を対象として、実効性の高いBCP策定のための新たな支援を始めます。埼玉県社会福祉協議会にBCP策定を支援する専門員を配置し、緊急時の体制やライフライン対策のアドバイス、近隣施設等との連携、先行事例の情報提供など、伴走型でBCP策定を支援します。

感染症や自然災害はいつ起こるか分かりません。早期にBCPを策定できるよう、県の支援事業をぜひご活用ください。

BCP策定支援の連絡先
(県社協 社会福祉施設 経営相談室内)

専用電話番号 048-826-5334

専用電子メールアドレス
bcp5334@fukushi-saitama.or.jp

【事業イメージ】



- ・緊急時の体制
- ・ライフライン対策
- ・近隣施設との連携
- ・先行事例の情報提供

高齢者・障害者
入所施設

伴走型支援

BCP策定
支援専門員



福祉の街ネットワーク

株式会社 福祉の街 <https://www.youism.jp>
さいたま市大宮区桜木町1-12-5 沢田ビル4F

無料カタログ
お送りします

介護のことなら何でもお気軽に
ご相談ください!

福祉用具のレンタル・販売 / 住宅改修

Silver
HOXON シルバーホクソン

通話無料 ロゴ ヨロシク
0120-65-4649 川口市中青木 2-22-34

掲載広告募集中！お問い合わせは地域連携課まで TEL：048-822-1248

今月のキラリ

さまざまな団体の
キラリとした活動を紹介

4市町の社協が連携し 地域を超えて福祉教育を推進

「ふくふく木曜会」 嵐山町・東松山市・吉見町・滑川町

隣接する4市町の社協が協働で、福祉教育を推進している「ふくふく木曜会」。社協職員のほか障害当事者など、地域の多様なメンバーで構成され、4市町が連携する強みを生かしながら活動しています。

「ふくふく木曜会」(以下、ふく木)は、嵐山町・東松山市・吉見町・滑川町の4社協が協働で、福祉教育を推進している団体です。4市町社協の職員のほか、障害当事者、ボランティア実践者、民生委員・児童委員、元教員など多様なメンバー約20人で構成されています。

小中学校からの福祉教育の依頼に対応して、プログラムを作成し、生徒たちに向けて実施する活動を行っているほか、月一回定例会を開催し、メンバー間での情報や意見交換、活動後の振り返りなどを行っています。

「ふく木」が立ち上がったきっかけは、嵐山町と東松山市の社協職員が「埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進

員養成研修」を受講したことでした。この研修は福祉教育の推進役となる人材育成を目的に、県社協が平成12年から11年間にわたって実施したものです。

地域資源を共有することで 多彩なプログラムを実施

2社協は研修終了後「この学びを実践につなげたい」と定例会を設け、受講生だった障害当事者などの地域住民も加わりました。その後吉見町社協が加わり、平成30年に滑川町社協が加わって4社協が協働する体制が整いました。

「ふく木」の活動の強みは4社協が連携することです。まずそれぞれが持つ資源を共有することで、単独では

難しいプログラムの実践が可能になりました。例えば自分の思いを福祉教育の場で語ることができる盲導犬ユーザーを、4社協がそれぞれ探すと



小学校で開催した福祉教育の一場面。「ふくふく木曜会」のメンバーである車いすユーザーが、自身の体験や思いを伝えながら、生徒の理解を深めています。

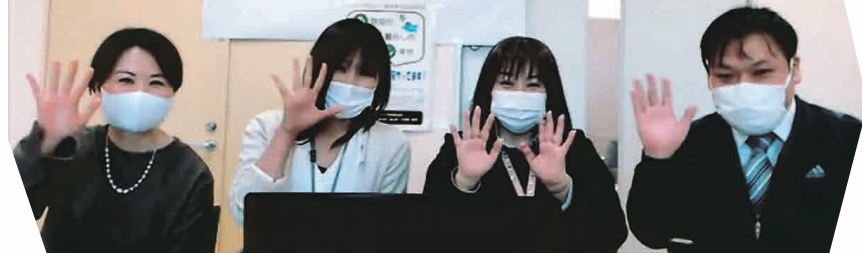
記などのサポートを行ったり、定例会自体が「共生・共助」を学ぶ場になっているといます。

4社協が協働するようになって5年目を迎えますが、「ふく木」がずっと大切にしてきたことは、地域のなかで「ともに生きる力」を育む福祉教育を進めていくことです。多くの子どもたちは福祉について「かわいそう

な人を助けてあげること」と捉えがちですが、当事者が教室を訪れ、自身の経験や思いを伝えることで、障害があってもできることがたくさんあることを知り、対等に向き合っていて、地域の中で助け合って生きていくことの大切さに気付くといえます。

「ふく木」はこれからも活動を継続していくとともに、福祉教育の対象を小中学校の生徒だけではなく、教員や保護者、高校・大学、一般企業などに広げていくことを目指しています。

ふくふく木曜会



今回、取材に応じてくれた「ふくふく木曜会」の皆さん。写真左より平野早恵さん(嵐山町社協)、一場千尋さん(吉見町社協)、関本菊恵さん(滑川町社協)、紫村元尚さん(東松山市社協)。

アスポーツ相談支援センターのご紹介 ～「悩みごと」や「心配ごと」をご相談ください～



県社協では、埼玉県社会福祉士会と共同で県から委託を受け、生活困窮者自立支援法に基づき、県内町村にお住まいの方を対象とする相談窓口を設置しています。

一人一人の悩みに寄り添いながら相談に応じ、関係機関と連携して解決に向けた支援を行います。本人だけでなく、家族や周りの方からの相談にも応じます。

お気軽に以下の連絡先にご相談ください。

【主な支援内容】

- ・各種支援制度、相談窓口の案内
- ・行政、医療機関等との連絡調整、手続き支援
- ・家計の立て直しや債務整理等についてのサポート
- ・ハローワークへの同行等の就労支援

【連絡先】

事業所名	お住まいの町村	連絡先
東部支所	伊奈町、宮代町、杉戸町、松伏町	048-720-8475
西部支所	小川町、滑川町、嵐山町、東秩父村	0493-81-3148
毛呂山出張所	毛呂山町、越生町、鳩山町、ときがわ町	080-2274-1445
川島出張所	川島町、吉見町	070-4391-7084
三芳出張所	三芳町	049-258-0122
北部支所	寄居町、美里町、神川町、上里町	048-577-6883
秩父支所	皆野町、横瀬町、長瀬町、小鹿野町	0494-62-6565



※市にお住まいの方は各市に相談窓口がありますので、まずは市役所にお尋ねください。 ※市の生活困窮者相談窓口(埼玉県HP)はコチラ→

生活支援課 TEL : 048-822-1249

令和5年 春の叙勲・褒章受章者のご紹介

※本会会員等の関係者をご紹介します。

旭日中綬章	地方自治功労	富岡 清様 (元熊谷市長、元埼玉県社会福祉協議会副会長)
旭日双光章	社会福祉功労	村山 勇治様 (元公益社団法人埼玉県手をつなぐ育成会理事長)
瑞宝双光章	更生保護功労	栗原 貞一様、高野 文孝様、矢場 光夫様、山喜 光明様 (保護司)
	社会福祉功労	塩野 裕様 (元軽費老人ホーム「シルバーハウス希望の園」施設長)
瑞宝単光章	社会福祉功労	磯部 恒子様 (民生委員・児童委員、埼玉県社会福祉協議会理事)
	児童福祉功労	水野 由美子様 (乳児院「富士見乳児院」室長保育士)
藍綬褒章	社会福祉功績	大場 玲子様 (民生委員・児童委員)
	更生保護功績	細田 栄能介様、村田 美都子様、柳原 知恵子様、吉岡 榮治様 (保護司)

企画総務課 TEL : 048-822-1191

生活困りごと相談会を実施しました ～無料相談&食料・日用品配付～

県社協では県から委託を受け、長引くコロナ禍や物価高騰等によって生活に困窮する方への支援として、さまざまな悩みや困りごとを身近な場所で気軽に相談することができるよう、県内4地域で「生活困りごと相談会」を実施しました（令和4年11月から令和5年2月にかけて計15回）。

なお、相談会ではブースでの個別相談支援とともに、来場者に食料品や日用品を手渡しし、食費や生活費に困っている方への即時的な支援も行いました。

●1,000人を超える来場者

相談会には延べ1,028人の方が来場され、相談を希望された方には弁護士、社会福祉士などの専門家が相談に応じました。

相談は、今後の生活や家計に関する不安、就労、多重債務など384件にのぼり、継続支援が必要な場合は、各地域の自立相談支援機関やハローワークにつながりました。相談者からは、「今まで誰にも相談できなかったが、今回、悩みを話せて気持ちが楽になった」、「気軽に相談できてよかった」などの声をいただきました。



●「相談したことがない」が6割

来場者アンケートの結果では、6割を超える方が「これまで行政などの相談窓口を利用したことがない」と回答し、その理由の1番多い回答は「どこに相談すべきか分からないから」というものでした。

今回の相談会を通じて、これまで相談する機会がなかった方や悩んでいる方に対し、相談する場所があることを広く知ってもらうことができました。

今後も県社協では、さまざまな課題を抱え困窮している方に途切れない支援を行ってまいります。

生活支援課 TEL : 048-822-1249

令和5年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険 検索

老人福祉施設、
障害者支援施設、
児童福祉施設などに

スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します！

◆加入対象は、社協の会員である
社会福祉法人等が運営する社会
福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

① 基本補償(賠償・見舞) 保険期間1年

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

プラン1 オプション5 施設の感染症対応費用補償

休業補償から各種対応費用までワイドな安心

- ① 休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
- ② 消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
- ③ 感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 職員等の補償

プラン4 法人役員等の補償



団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
保険会社 TEL : 03(3349)5137

受付時間：平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL : 03(3581)4667

受付時間：平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ22-12033 から抜粋)

赤い羽根だより

商品の購入が寄付につながります

今月号は、埼玉県共同募金会が企業と連携し、商品の購入代金の一部が共同募金の寄付となる取り組みをご紹介します。

◆お中元・お歳暮商品の購入による協力

日本ハムマーケティング株式会社では、同社がキャンペーンを行っているお中元、お歳暮商品の売上の10%を、共同募金へ寄付する取り組みを行っています。令和4年度は約10万円の寄付となりました。

この対象となっている商品の価格は特別割引となっており、お中元、お歳暮をお得な価格で贈ることができるだけでなく、社会貢献につながっています。

共同募金会では、赤い羽根自動販売機の設置などで共同募金に協力いただける企業を募集しています。ご不明な点など、ございましたらお気軽にお問い合わせください。

◆飲料水・アイスクリームの購入による協力

提携した自動販売機(赤い羽根自動販売機)で購入された商品代金のうち、一定額が共同募金に対して寄付される取り組みを行っています。現在、県内に238台の自動販売機が設置されており、令和4年度は各メーカーから合計約319万円の寄付がありました。

赤い羽根自動販売機は、公園や会館など、一般の皆さんも購入できる場所に設置されています。これからの暑い時期、熱中症対策や甘いアイスを食べたくなった際は、是非赤い羽根自動販売機でお買い求めください。



▲設置先などの一覧はこちら



※5月号で令和4年度共同募金運動結果を報告しましたが、各募金額に誤りがありました。なお、合計額には変更ありません。お詫びして訂正いたします。

赤い羽根募金	誤	517,171,296円	正	517,165,446円
地域歳末募金	誤	285,935,985円	正	285,941,835円



社会福祉法人埼玉県共同募金会 年間を通して助成要望を受け付けています。

〒330-0075 さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ内
TEL 048-822-4045 FAX 048-824-9819 [赤い羽根さいたま](#) 🔍検索

ネット募金
受け付け中!



みまもりCUBE -システムLight- Plus



2023 介護ロボット導入セミナー

～ 補助金を活用して見守りロボットを導入しませんか? ～

【みまもりCUBE-システムLight-の導入で転倒防止に。】

独自の画像認識で“起床や離床行動”を即座に検知し、スマートフォンへ通知するシステムです。

厚生労働省&公益財団法人テクノエイド協会が発行する事例集に掲載

上記にて情報を公開されている安心と信頼の「見守り支援機器」です。 詳細はQRからP52へ!!



7.3 DAY1 [受付・開場] 14:00 ~ 15:30
[会場] 彩の国すこやかプラザ
さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 多目的実習室

7.5 DAY2 [受付・開場] 14:00 ~ 15:30
[会場] 所沢市民文化センター ミュース
所沢市並木1-9-1 会議室2号

主催 株式会社ラムロック 申込 こちらのQRから→
東京都千代田区神田小川町2-3-7 兼七ビル10階
☎ 0120-927-760 <https://ramrock-eyes.jp/light>



令和5年6月15日発行 毎月1回15日発行 NO.783
発行所：社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ内
TEL 048(822)1248 FAX 048(822)3078 ご意見やご感想は地域連携課まで

